

高校日本史プリント (過去問類似)

中世 No.10

名前

得点

/11

問1 南北朝時代から室町時代にかけて、近畿地方などの先進地域において、農民たちが自衛や自治のために結成した自律的な村落共同体を何というか。この共同体では、神社の祭礼を運営する組織が結成され、人々は鎮守の社に集まって寄合を開き、一味同心の結束を誓い合った。 (2008年 全国公立入試 類似)

1. 散村 2. 荘村 3. 惣村 4. 郷村

問2 室町幕府において、将軍を補佐して政務を統括し、足利一門の有力守護大名である細川・斯波・畠山の3氏から交代で任命された役職を何というか。 (2005年 全国公立入試 類似)

1. 管領 2. 執事 3. 所司 4. 探題

問3 室町幕府の将軍は、守護の勢力拡大を牽制し、自らの権力を維持するために独自の経済的・軍支的基盤を必要とした。将軍の直臣である奉公衆などに管理が委ねられ、幕府の財政を支えた将軍の直轄領を何と呼ぶか。 (2008年 全国公立入試 類似)

1. 御料所 2. 蔵入地 3. 支配所 4. 幕府領

問4 室町時代に、京都などの都市において、酒屋とともに高利貸を営んで富を蓄え、幕府の重要な財源として課税対象となった、質物を保管する強固な倉庫を備えた金融業者を何というか。 (2005年 全国公立入試 類似)

1. 借上 2. 問屋 3. 酒屋 4. 土倉

問5 鎌倉時代、京都と鎌倉の間では文化的な交渉も行われた。後鳥羽上皇の院宣によって編纂され、和歌を好んだ将軍源実朝のもとにも届けられた、中世を代表する勅撰和歌集は何か。 (2006年 全国公立入試 類似)

1. 新古今和歌集 2. 続古今和歌集 3. 新勅撰和歌集 4. 後拾遺和歌集

問6 源実朝の暗殺後に幕府と朝廷の対立が深まる中、1221年に院宣によって執権の追討が命じられたことを契機に発生し、結果として幕府の朝廷に対する優位を決定づけた兵乱は何か。 (2007年 全国公立入試 類似)

1. 承久の乱 2. 元弘の乱 3. 嘉元の乱 4. 正中の変

問7 室町時代などの中世日本において、馬の背に荷物を載せて陸上の物資輸送を担った運送業者を何と呼ぶか。琵琶湖沿岸の坂本や大津などに多く居住し、しばしば土一揆の主力ともなった。 (2008年 全国公立入試 類似)

1. 馬借 2. 問屋 3. 問丸 4. 車借

問8 室町幕府の3代将軍足利義満が開始した明との公式な貿易では、倭寇と正式な貿易船を区別するために、明から交付された特定の証明書が用いられた。この貿易を何というか。 (2004年 全国公立入試 類似)

1. 南蛮貿易 2. 勘合貿易 3. 日朝貿易 4. 琉球貿易

問9 鎌倉時代に、交通の要地や寺社の門前などで、月に3回定期的に開かれた市場を何というか。 (2005年 全国公立入試 類似)

1. 六斎市 2. 三斎市 3. 四斎市 4. 三日市

問10 室町時代後期から戦国時代にかけて、明から輸入された宋銭や洪武通宝・永楽通宝などの銅銭が広く流通したが、同時に国内で鑄造された粗悪な私鑄銭も混入した。このため、人々が取引の際に良質な貨幣を選び、悪質な貨幣の受け取りを拒否する行為が一般化し、市場の混乱を招いた。この、良質な貨幣を選別する行為を何というか。 (2005年 全国公立入試 類似)

1. 鏝銭 2. 精銭 3. 撰銭 4. 悪銭

問11 13世紀前半の1223年に、京都から東海道を下って武家政権の本拠地へと旅した人物によって著された作品である。作中には、当時の交通事情や都市の様子に加え、船着き場に多くの商人が集まりにぎわう社会経済の状況が描かれており、中世の交通や庶民の生活を知る上で貴重な史料となっている、この紀行文の名称を何というか。 (2006年 全国公立入試 類似)

1. 海道記 2. 弁内侍日記 3. 東関紀行 4. 十六夜日記

答え合わせ・解説 No.10

問1	答え 3 惣村	南北朝から室町期にかけて、農民たちが自衛や自治のために結成した共同体を惣村（惣）と呼ぶ。惣村では、鎮守の神社の祭礼を運営する宮座が結成され、寄合を通じて一味同心の結束が図られた。江戸時代の村や、古代の部民などとは異なる中世特有の村落形態である。
問2	答え 1 管領	管領は室町幕府の将軍を補佐する最高職であり、足利氏の一門である細川氏・斯波氏・畠山氏（三管領）から選ばれた。鎌倉府は東国支配のために置かれた機関であり、御料所は幕府の直轄領を指す。
問3	答え 1 御料所	室町幕府は守護の勢力を牽制し、将軍の権力を担保するために、各地に将軍直轄領を保有した。これを管理したのが将軍の直臣である奉公衆であり、この直轄領は幕府の重要な財政基盤および軍事基盤となった。鎌倉幕府の関東御分国や江戸幕府の幕領（天領）など、他の武家政権の直轄領との区別が重要である。
問4	答え 4 土倉	室町時代には貨幣経済の浸透に伴い、高利貸を営む金融業者が台頭した。質物を保管する倉庫を持っていたことからこの名で呼ばれ、酒屋とともに幕府の重要な財源として課税対象（土倉役・酒屋役）となった。
問5	答え 1 新古今和歌集	後鳥羽上皇の院宣によって編纂された『新古今和歌集』は、1205年に完成し、将軍源実朝のもとへも送られた。実朝は万葉風の歌を好んだことで知られるが、京都の貴族文化、特に和歌を通じて朝廷との結びつきを深めていた。
問6	答え 1 承久の乱	源実朝の暗殺によって源氏の将軍後継が途絶え、幕府と朝廷の緊張が高まりました。1221年、後鳥羽上皇は幕府の打倒を目指して執権の北条義時追討の院宣を下しましたが、幕府側は北条政子の呼びかけのもとで結束し、大軍を京都に送って朝廷軍を破りました。この兵乱により、幕府の朝廷に対する支配力が決定的に強まりました。
問7	答え 1 馬借	中世において、馬の背に荷物を載せて物資の運送を行った運送業者は馬借と呼ばれる。琵琶湖沿岸の坂本や大津などに多く存在し、物資の流通において重要な役割を果たした。彼らは組織的な行動力を持っていたため、徳政一揆（土一揆）の際にはその主力として活動することもあった。なお、牛の背に荷物を載せて運んだ業者は車借や牛借などと呼ばれる。
問8	答え 2 勘合貿易	足利義満は明の皇帝から「日本国王」に封じられ、朝貢の形式をとる日明貿易を開始した。この貿易では、明から支給された「勘合」と呼ばれる割符が使用され、これを持たない倭寇などの密貿易船と区別された。この貿易を通じて、大量の銅銭が日本に流入し、国内の貨幣経済の発達を促すこととなった。
問9	答え 2 三斎市	鎌倉時代には農業生産力の向上や貨幣の流通を背景に、荘園や国衙領の交通の便が良い場所で定期市が開かれるようになった。月に3回開かれるものはこのように呼ばれ、室町時代になると月に6回開かれる六斎市へと発展した。
問10	答え 3 撰銭	日明貿易などを通じて中国から大量の銅銭が流入したが、室町時代後期になると、国内で私的に铸造された粗悪な私鑄銭（鋸銭）が混じるようになった。人々は支払いの際に、割れや欠けのない良質な銭を選び、粗悪な銭を嫌う選別行為を行うようになり、これが円滑な取引を妨げたため、幕府や大名による規制が必要となった。
問11	答え 1 海道記	1223年（貞応2年）に京都を出発し、東海道を経て鎌倉に下った道中の様子を記した紀行文である。作者は未詳であるが、当時の宿駅の様子や、鎌倉の船着き場に集まる商人の活動など、鎌倉時代初期の交通や社会経済の実態を伝える貴重な歴史史料として位置づけられている。同様の鎌倉時代の紀行文には、1242年頃の旅を描いた『東関紀行』などがある。